

磐井中学校 第2回学校運営支援協議会

期 日 令和7年12月11日（木）

時 間 午後2時00分～

場 所 校長室

次 第

進行：主幹教諭

- 1 開会
- 2 校長挨拶
- 3 生徒の様子
- 4 協議
 - (1) 学校評価アンケートから
 - (2) その他
- 5 その他
- 6 閉会



《令和7年度 磐井中学校 学校運営支援協議会委員》

入	駒		智	様
菊	池	達	也	様
小	野	寺	邦	様
小	野	寺	康	様
鈴	木	綾	子	様
澤	田	直	哉	様
加	藤		清	様

磐井中学校まなびフェスト

学校教育目標

豊かな心と創造性を持ち、心身共に逞しく自己を鍛える生徒の育成

めざす生徒像

自ら求めて学び、未来を拓く生徒

自他を敬愛し、思いやりのある生徒

自ら心身を鍛え、逞しく実行する生徒

具体的な生徒の姿

知 磨く知性

- 筋道を立てて考え、根拠を話すことができる生徒
- 自分の思いを相手に伝えるように話すことができる生徒
- 学んだことを様々な場に活かそうとする生徒

徳 豊かな感性

- 明るい返事や挨拶ができる生徒
- 他者と共感できる生徒
- 自他の個性を認め、励まし合い助け合う生徒

体 鍛える身体

- 基本的な運動、食、生活習慣を身に付けた生徒
- 自らの行動をコントロールできる生徒
- 物事をやり抜く生徒

学校の到達目標

- わかる授業を展開します。
…生徒の肯定的評価目標70%
- ペアやグループなど、共同学習を活性化させます。
…生徒の肯定的評価目標80%
- 《取り組み》
- ①基本的な学習過程を定着させ、自分の考えを表現する場の充実に努めます。
- ②共同学習の充実に図り、探究的な学習の質を高めます。

- 登校時の挨拶と、朝の短学活の挨拶を元気にしています。
…生徒の肯定的評価目標85%
- 多様な価値観にふれる機会をつくります。
…生徒の肯定的評価目標70%
- 《取り組み》
- ①生徒会活動と連携します。
- ②道徳の授業や総合的な学習の時間で、協働学習の充実に図ります。

- 健康な体づくりへの意識を高め、生活習慣を確立します。
…生徒の肯定的目標70%
- メディアの過度な利用が生活習慣や心身の健康に関与していることを学ぶ機会を増やします。
…生徒の肯定的目標70%
- 《取り組み》
- ①望ましい生活習慣について、繰り返し注意喚起します。
- ②調査をし、実態を可視化します。

家庭と連携して

- 家庭学習を毎日続けます。
- 読書に親しみます。
- 適正なメディアコントロールを行います。

- あいさつを交わします。
- 時間を守って行動します。
- 「ありがとう」等、相手の心を温かくする言葉遣いをします。

- 必ず朝食を摂ります。
- 十分な睡眠時間を確保します。
- 適度な運動習慣を確立し、登下校の仕方等を工夫します。

地域とともに、心豊かな生徒を育てます。

- 《コミュニティ・スクール》
- 学校運営支援協議会を通じて目標やビジョンを共有していく「地域とともにある学校づくり」を推進
- 1 育てたい子どもの姿の共有
- 2 多様な機関との連携
- 3 地域の未来像の共有

- 《地域の教育人材・資源の活用》
- 1 人材、団体、自然、地域産業、文化財、施設等の有効活用
- 2 地域学校協働活動との連携（教育活動支援、環境整備支援、学校安全支援）
- 3 区長会、民生児童委員連絡協議会との意見交換

- 《保護者と連携した部活動改革》
- 将来にわたり活動に継続して取り組むことができる環境の整備
- 1 休日の部活動の、段階的な地域移行に伴う、新たな課題への対応
- 2 自己肯定感を高めることができる活動のあり方の理解と共有

※『まなびフェスト』は学校の達成目標について、生徒の参加や家庭の協力、地域との連携を図りながら達成をめざすものです。

令和7年度 第1回学校評価アンケート結果

1 質問項目と肯定的な評価

	項 目	生 徒	保護者	教職員
【磨く知性】	1 筋道を立てて考え、根拠を話すことができる。	75%	69%	31%
	2 自分の思いを、相手に伝わるように話すことができる。	84%	67%	50%
	3 学んだことを、さまざまな場面で活かそうとしている。	87%	76%	66%
【豊かな感性】	4 明るい返事やあいさつができる。	83%	76%	69%
	5 他者の気持ちを理解し、感情を共有することができる。	87%	85%	62%
	6 自他の個性を認め、励まし合い助け合っている。	90%	82%	85%
【鍛える身体】	7 基本的な運動、食、生活習慣を身に付けている。	83%	85%	69%
	8 自分の行動をコントロールできる。	88%	77%	62%
	9 物事をやり抜くことができる。	87%	76%	77%
【学校の到達目標】	10 学校は、「わかる授業」を進めている。	90%	85%	96%
	11 学校は、ペア学習やグループ学習を積極的に行っている。	94%	96%	96%
	12 学校は、登校した時や朝の会での挨拶が元気にできるように取り組んでいる。	88%	91%	86%
	13 学校は、たくさんの人の、いろいろな価値観に出会う機会をつくっている。	90%	86%	96%
	14 学校は、健康な体をつくる意識を高めて、望ましい生活習慣が身につくようにしている。	91%	85%	96%
	15 学校はインターネットやSNSの利用のし過ぎが、生活習慣を乱したり、心身の健康を害したりすることを知る機会を増やしている、	84%	82%	93%

2 考察

(1) 磨く知性

「筋道を立てて考え、根拠を話すことができる」「自分の思いを相手に伝わるように話す」の2項目が、生徒も保護者も、すべての学年で低評価となっていることが顕著な特徴としてあげられる。教員による評

価も顕著に低くなっている。この2項目は、円滑な集団生活を支え、将来的に社会人として論理的な思考のもとに計画を立案したり、作業を行ったりしていくうえで不可欠な資質であると考えられる。今後、教科の指導や学級活動、行事など、横断的な活動を通し、生徒の発達段階に応じた成長を促すようにしていきたい。

「学んだことを、様々な場面に活かそうとしている」の項目については、生徒の評価は、87%で8割以上の評価となっているが、保護者の評価はそれほど高くはなっていない。学校で学習している内容をさまざまな方法で保護者に情報提供し、生徒の成長を紹介していきたい。

(2) 豊かな感性

「明るい返事や挨拶ができる」の項目は、生徒の評価は83%、保護者の評価は76%となっている。校内での生徒の様子から判断すると、小学校までの指導の成果か、挨拶する習慣は生徒にかなり身についていると思われる。ただし、ただ返事や挨拶をするだけではなく、「明るい」という評価基準を加えると、さらに意識を高めた返事や挨拶としていくことが期待される。生徒会活動や職場体験学習の事前研修など、さまざまな校内活動と横断的に連携し、さらに明るい返事や挨拶ができる生徒へと成長させていきたい。

「他者の気持ちを理解し、感情を共有することができる」の項目の生徒の評価は87%、「自他の個性を認め、励まし合い助け合っている」の項目の生徒の評価は90%となっている。特に「自他の個性を認め、励まし合い助け合っている」の項目は、保護者の評価が82%、教員の評価が85%と、どちらも高評価となっている。生徒の人間関係が全体として落ち着いており、相互に尊重し合いながら校内生活を送っている様子がうかがえる。

(3) 鍛える身体

「基本的な運動、食、生活習慣を身に付けている」の項目は、生徒が83%、保護者の評価は85%となっている。どちらも8割以上で高評価となっている。ただし、教員の評価は69%である。「身についている」かどうかの観点で見た場合、そこに評価の差が生じてくるのではないと思われる。保健室からの通信なども活用し、どういった生活が成長期である中学生に望ましいのか、生徒や保護者が理解できるようにしていきたい。

「自分の行動をコントロールすることができる」は、1年生の保護者の評価が、下位となっている。教師による評価も62%と、低評価である。一方、生徒全体による評価は88%となっており、評価の差が生じている。思春期である中学生の自己評価と、保護者や教員のような周囲の大人からの評価に、ギャップが生じる傾向があるのではないかと推測される。

「物事をやり抜くことができる」の評価も、生徒が87%、保護者が76%と、同様の傾向が見られる。

(4) 学校の到達目標

「学校は、わかる授業を進めている」の項目は、生徒の肯定的評価目標が70%のところ、90%と高評価であった。教員の評価も、96%と高くなっている。また、「学校は、ペア学習やグループ学習を積極的に行っている」の項目は、生徒の肯定的評価目標が80%のところ、94%と高評価である。教員の評価も、96%と高くなっている。教員自身が、わかる授業を提供することできるよう常に心掛け、基本的な学習過程を定着させ、自分の考えを表現する場を充実させたり、共同学習の充実を図り、探求的な学習の質を高めてきたりした結果であると考えられる。一方で、テストなどでなかなか結果を残せていない生徒も見ら

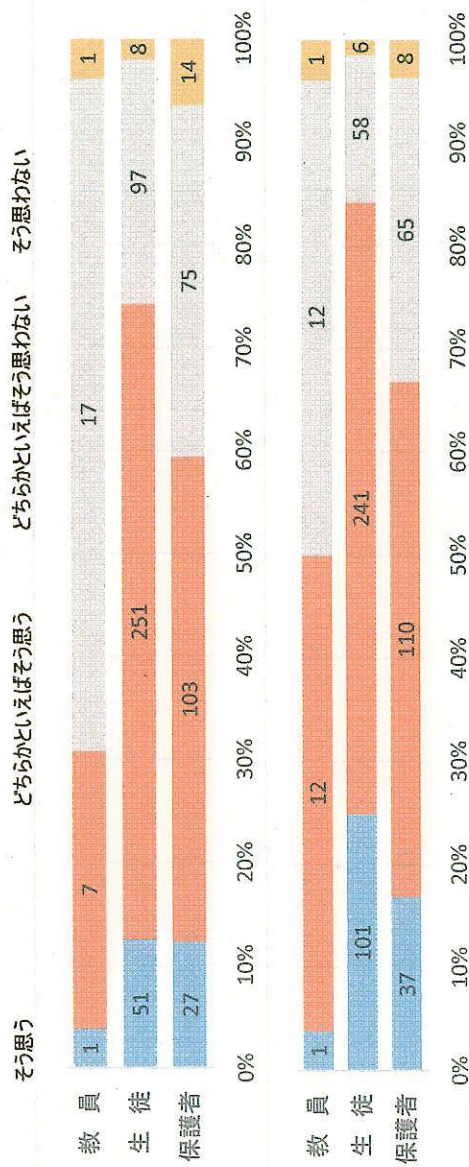
れている。個に応じた対応を、継続していく必要があると思われる。

「学校は、登校した時や朝の会での挨拶が元気にできるように取り組んでいる」の項目は、生徒の肯定的評価目標が85%のところ、88%の評価であった。「豊かな感性」の質問項目4と関係していると思われるが、生徒会活動などを通して、全校生徒が「元気な」挨拶ができるようにさまざま取り組んでいることが、生徒に意識されている結果だと思われる。「学校は、たくさんの人の、いろいろな価値観に出会う機会をつくっている」の項目は、生徒の肯定的目標が70%のところ、90%と高評価であった。教員の評価も、96%と高くなっている。各学年ともに、総合的な学習の一環として、いろいろな方のお話を聞いたり、さまざまな施設に出かけたりする機会を、積極的に計画してきた成果と考えられる。

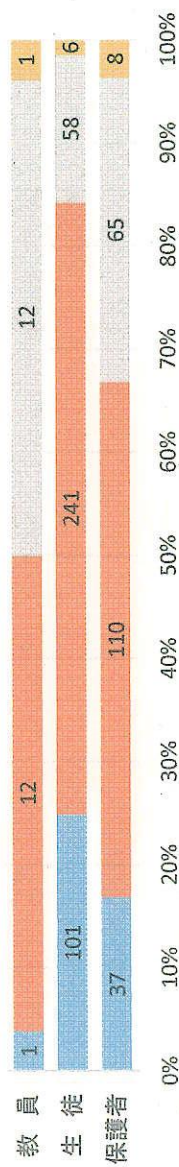
「学校は、健康な体をつく意識を高めて、望ましい生活習慣が身につくようにしている」の項目は、生徒の肯定的目標が70%のところ、91%と高評価であった。教員の評価も、96%と高くなっている。保健体育などの教科の授業、学級活動、保健室からの指導など、望ましい生活習慣について繰り返し、注意喚起を行ってきた成果であると思われる。「学校は、インターネットやSNSの利用のし過ぎが、生活習慣を乱したり、心身の健康を害したりすることを知る機会を増やしている」の項目は、生徒の肯定的目標が70%のところ84%となっており、目標を達成しているものの、他の項目と比較して低めの評価となっている。保護者の評価も82%であり、他の項目と比較して低めの評価となっているのは、同様の傾向にある。一方で、教員の評価は93%となっている。学校として、機会を見てメディアの使い方について指導をしているものの、生徒や保護者の意識からすれば、まだ不十分との評価と考えられる。

令和7年度 学校評価アンケート 内訳

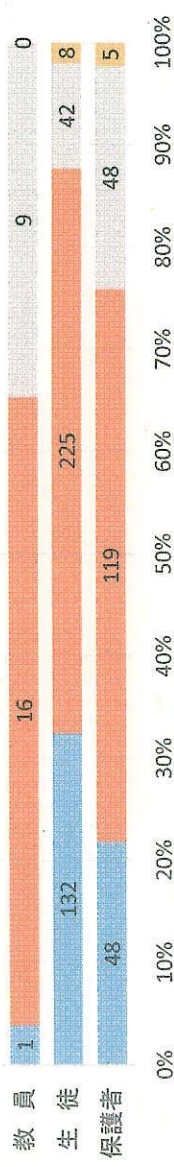
1. 筋道を立てて考え、根拠を話すことができる。



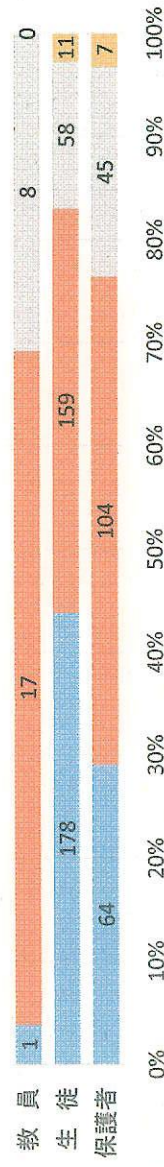
2. 自分の思いを、相手に伝えるように話すことができる。



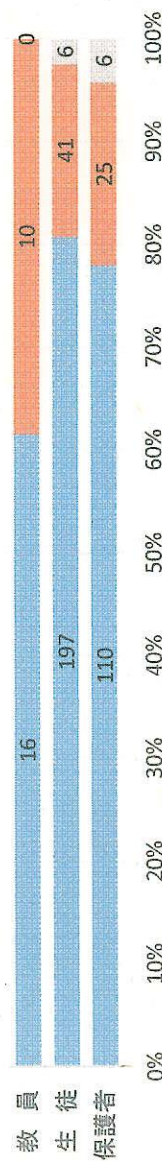
3. 学んだことを、さまざまな場面で活かそうとしている。



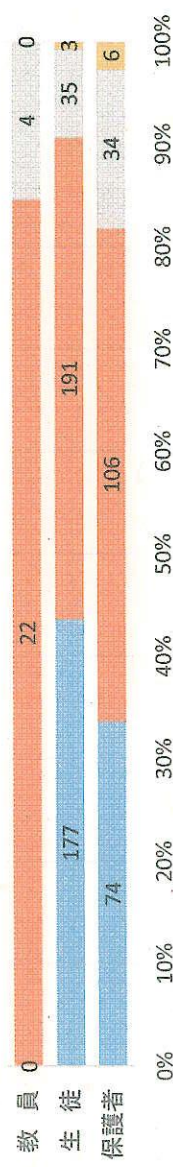
4. 明るい返事やあいさつができる。



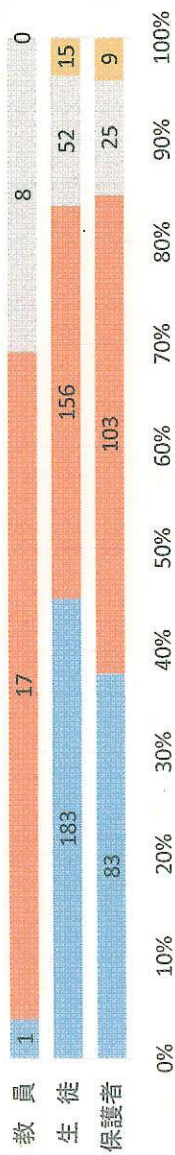
5. 他者の気持ちを理解し、感情を共有することができる。



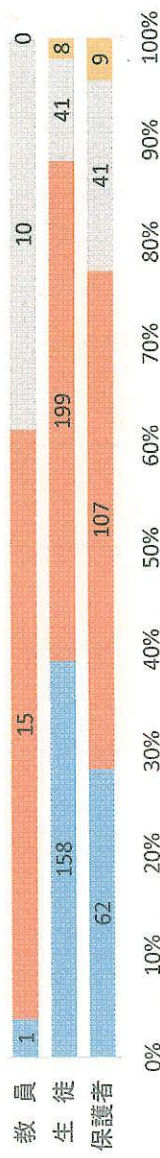
6. 自他の個性を認め、励まし合い助け合っている。



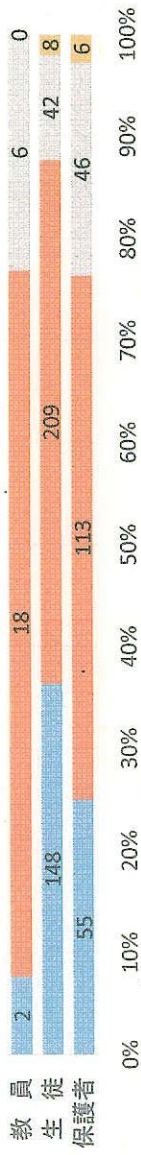
7. 基本的な運動、食、生活習慣Wを身に付けている。



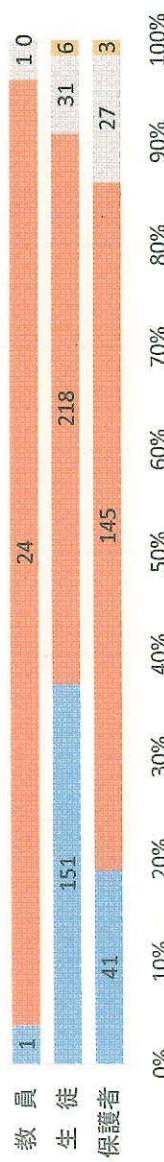
8. 自分の行動をコントロールすることができる。



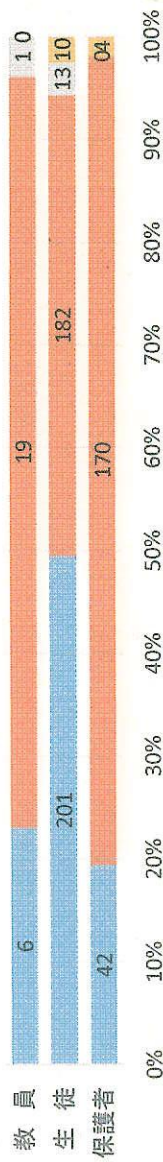
9. 物事をやり抜くことができる。



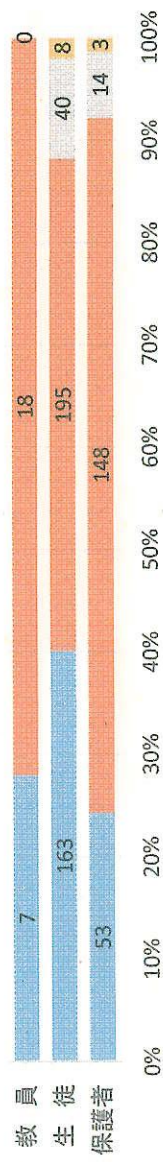
10. 学校は、「わかる授業」を進めている。



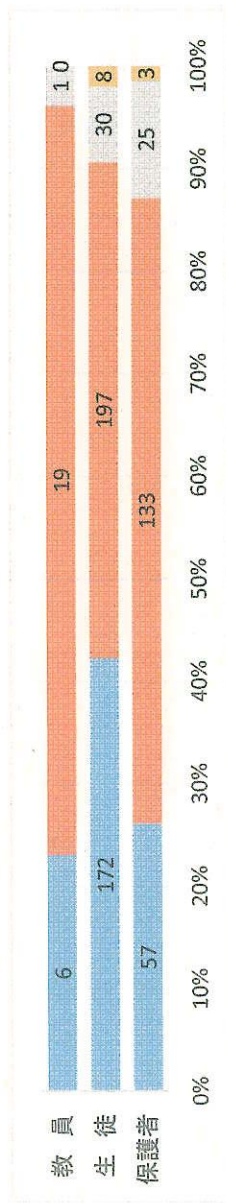
11. 学校は、ペア学習やグループ学習を積極的にやっている。



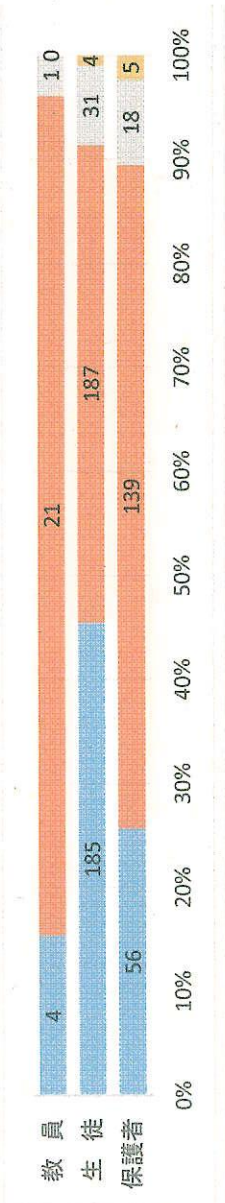
12. 学校は、登校した時や朝の会での挨拶が元気にできるように取り組んでいる。



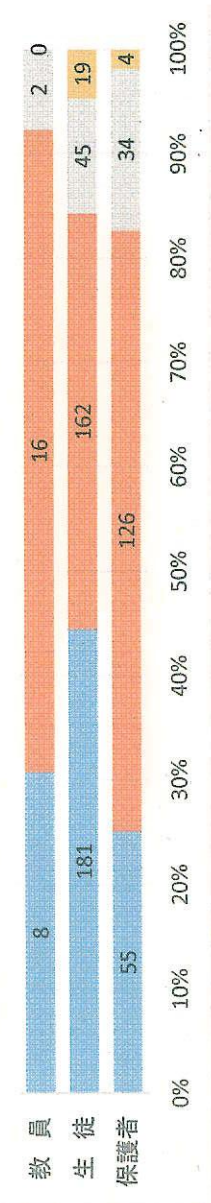
13. 学校は、たくさんの方の、いろいろな価値観（大切にしている考え方や信念）に出会う機会をつくっている。



14. 学校は、健康な体をつくる意識を高めて、望ましい生活習慣が身につくようにしている。



15. 学校はインターネットやSNSの利用のし過ぎが、生活習慣を乱したり、心身の健康を害したりすることを知らせる機会を増やしている。



議熟

[illegible]

「いじめ」とは？ 法律上の定義

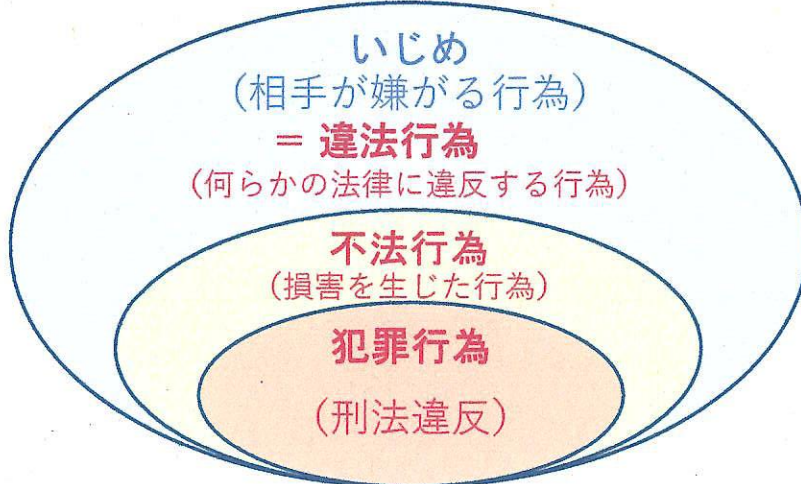
参照法令：民法、刑法、いじめ防止対策推進法ほか

① **行 動**：心理的または物理的に相手へ影響を与える行為
(インターネットを含む)

② **適 用**：相手が嫌だ、苦痛だと感じれば「いじめ」になる
いじめた側にそのつもりがなくても「いじめ」になる

③ **当事者**：学校などのコミュニティでつながった生徒同士で発生

④ **場 所**：学校内外は関係ない
(インターネットも含む)



これらの定義から「いじり」を考えると、大きな違いは、いじられることへの承諾の有無

「いじめ」はどの法律に違反する可能性があるのか？

「きもい」「死ね」「殺すぞ」
などの暴言や書込み
⇒ 脅迫罪 (刑法222条)
名誉棄損罪 (〃 230条)
侮辱罪 (〃 231条)

いじめ防止法4条で
いじめは禁止されて
いるけれど？

「たたく」「ける」など
⇒ 傷害罪 (刑法204条)
暴行罪 (〃 208条)

⑨ 「無視」は刑法違反ではないが、いじめに該当し道徳や信義則にも反する

いじめの加害者が負う法令上のリスク (学齢生徒)

【被害生徒・保護者】

【加害生徒・保護者】



⑩ 報道やインターネットで社会的制裁を受け
加害者が被害者に転じる可能性もある

行政上 (学校教育法)

- ・出席停止

民事上 (民法)

- ・監督者責任
- ・慰謝料、損害賠償の支払い

刑法上 (少年法)

- ・保護処分、検察官送致

「いじめ」の加害者・被害者にならないために 気をつけること

- 1 誰でも **権利能力は平等**であることを常に忘れずに！
 - ・人はそれぞれ学力などの能力に違いがあっても、権利能力は同じ
 - ・家庭の経済状況に違いがあっても、児童生徒の権利能力とは関係ない
- 2 いじめは、相手の**教育を受ける権利（機会）を奪う**
 - ・いじめは相手の学びを妨害すると同時に、自身の学びの機会も失う
- 3 他者からの発言や要求は、**自分で考えて取捨選択**する
 - ・相手が考えずに発した言葉は、受け取らない
 - ・相手の言いなりになることは、優しさではない
- 4 悩みごとは**一人で抱え込まない**
 - ・いじめられたこと、虐待されたことは、恥ずかしいことではない
 - ・先生や家族、友達など誰かに相談することが解決の第一歩
 - ・学校や家庭、地域に居心地の良い場所を見つける

「虐待」は保護者が児童生徒に行う次の行為ですが、家庭での虐待が「いじめ」につながるケースも指摘されています。

① 身体的虐待 ② 性的虐待 ③ ネグレクト ④ 心理的虐待

いじめをしそうに
なったら

- ・他者は「かがみ」
- ・自分がされたと想像してみる
- ・自分がしたことで、保護者に責任を負わせるかもしれない

いじめをして
しまったら

- ・素直に謝る努力
- ・ただし、謝罪を受け入れてくれるかは相手次第
- ・何がいけなかったのかに気付き反省する

いじめられたら

- ・いじめた相手に「嫌だ」と伝えられるか
- ・距離を置く、避難するのも対処法の一つ
- ・一人で抱え込まずに相談

心身を大切にして、価値観を大切にして、時間を大切にして
自分は何を望むのか、自分が「恰好いい」と思う生き方は何か
それは夢や目標にもなり、その行動の積み重ねが自分の人生になる

まとめ

他者から【奪う人】にならずに、
自分で考えて【与えられる人】になる
ことができれば幸せですね



令和7年10月31日(金)

一関市立磐井中学校
生徒会執行部通信 第15号

文化祭 反省

文化祭取り組みの 振り返り

文化祭取り組みでは、磐井中生一人ひとりが真剣に取り組み、仲間との絆を深めながら、自分たちの可能性を信じ、心をつなげて取り組むことができました。そして、一人ひとりが自ら新たな一步を踏み出し、夢や未来に向けて進化した文化祭だったと思います。

全校のみなさんに回答してもらった文化祭の振り返りアンケートの結果を紹介します。



1 文化祭スローガン「進歌～Step to the future～」は達成できましたか？

《スローガンに込められた思い》

【進】…生徒会スローガン「SHIN」、前進、新たな一步を踏み出す

【歌】…学級・学年・全校の思いを込めた合唱(歌)

【Step to the future】…未来へと進む一步、一步前進した学級・学年・磐井中生

よくできた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
74.7%	23.5%	1.1%	0.8%

2 文化祭にかかわる話し合い(要項審議、係決め)・合唱取り組み・全校制作などを通して、学級の仲間と協力することができましたか？

よくできた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
73.0%	24.1%	2.4%	0.5%

3 合唱練習や当日の発表を、しっかりと行うことができましたか。

よくできた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
72.7%	24.1%	2.9%	0.3%

4 あなたは、文化祭取り組みを通して成長することができましたか？

よくできた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
66.7%	31.9%	1.1%	0.3%

5 あなたの学級は、文化祭取り組みを通して成長することができましたか？

よくできた	ほぼできた	あまりできなかった	できなかった
72.3%	26.6%	0.8%	0.3%

文化祭取り組みを通して、お互いに見つかり感じたりした

磐井中生の「新たな一步」「前進した姿」

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">・パートリーダーを中心に協力すること・楽しむ姿、一生懸命取り組む姿・仲間と共に成長すること・目標達成に必要なことを見出して行動する力・学級の団結が深まった・みんな自信をもって声を出していた・休み時間なども練習していたこと・磐井中生が一つになって、みんなで全校合唱をつくりあげた・それぞれの歌詞を理解して取り組んだ・諦めないで何事もチャレンジすること・アドバイスをし合って交流する力・相手の気持ちを考えて行動すること・合唱にしっかり向き合う姿勢・文化祭や曲に込める熱い思い・磐井中全体が一つの目標に向かって物事に取り組むこと・全校でつくりあげた良い文化祭だった・目標に向かって、一人ではなく周りの人と支えあうこと・自分から行動し、ルールや規律を守り、感謝できる磐井中・集中して話を聞くこと・学年問わずアドバイスをする姿・全員が本気を出せば、こんなにいい文化祭になったと感じた・一人一人が考えて行動していたこと・学級や学年で一致団結して物事に取り組む姿・何事にも挑戦すること・全校で声と心をつにすること・先生に言われなくても、自分たちで考えて動くことができるようになった・磐井中らしさを見つけることができた・入学してきた時とくらべて、成長した姿・全員が同じ気持ちで練習に取り組んでいることが実感できた・前よりも静かに整列・移動ができた・考えて行動しようとする人が増えた・いつもは学年がバラバラだけど、全校合唱を通して全校が1つになれたと思う | <ul style="list-style-type: none">・練習をどれだけ頑張ったかが伝わってきた・磐井中生全員がレベルの高い合唱をしていた・皆で歌うことは楽しいということに気づいた・一日一日を大切に活動していること・面白いところは全力で楽しみ、真剣なところは真剣にやるという切り替えがすごい・仲間と心の底から喜んだり悔しがったりする姿・友達のことを想える磐井中生・自分ができていることに自信を持ち、それを堂々と発表することができる姿・失敗しても前へと進んでく姿・切り替えができるようになった・努力を重ねて自信を持つことができた・周りを見て動くこと、臨機応変な対応をすること・特に3年生のパートリーダーは、全校の理解度などを見て、進め方や教え方を変えていた・返事や質問などの意思表示をするようになった・磐井中生のみんなが何かを届けたいという思いがあって取り組んだ文化祭だった・全校合唱では、運動会とはまた違った感動を伝えることができた・一人の力は小さくても、一人ひとりがやるべきことをやれば素晴らしいもの（モザイク画・合唱）ができることを実感した・一つのことをみんなで作り上げる姿・合唱という文化を全校でしっかりと受け継ぐことができた・自分事としてとらえて行動する人が増えた・みんな前向きになった・ユーモアたっぷりだったこと・仲間の声に対する返事や反応が増えた・文化祭で学んだことを来年に生かしたいと思うことができた・小学生の声から中学生の声になった・時間を意識して行動すること・結果に納得いかなくても、次の行事に生かそうと思うこと・お互いを称え合うこと・自分たちの未来を想像する姿・来年への新たな一步を踏み出すことができた |
|---|--|

すこやか

R7. 12. 8

No. 1 3

磐井中学校
保健室



11月に行った「睡眠＆スクリーンタイムチェック表」への取り組みはどうでしたか？

今年の7月に行った結果と比較すると、皆さんのスクリーンタイムの状況や改善の意識が見えました。

良かったこと

ゲームやSNSの時間を減らそうと意識する生徒が増えました！

「勉強や趣味のために自分で時間を決めている」という声も多く聞かれました。

課題

スクリーンタイムが3時間以上の生徒がまだ半数以上いる。

寝る直前までスマートフォンを使用する習慣がある生徒が多い。



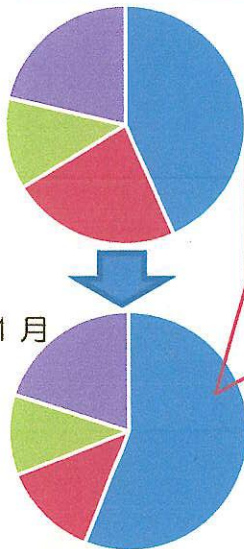
結果を比較して考えてほしいこと…

- ・ゲーム・SNS・動画を見る時間が理想的な状態になっていますか？
- ・「もう少し減らしたい」と思っている生徒もまだ多くいるようです。
- ・冬休み前に家庭で話し合いメディアとの付き合い方を見直していきましょう！

1回目、2回目の個人の結果も一緒に配布しました。比較してどうでしたか？

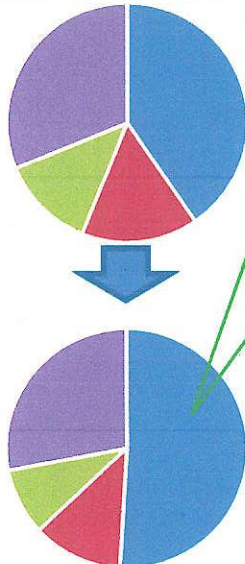
・7月との比較

1年生の結果



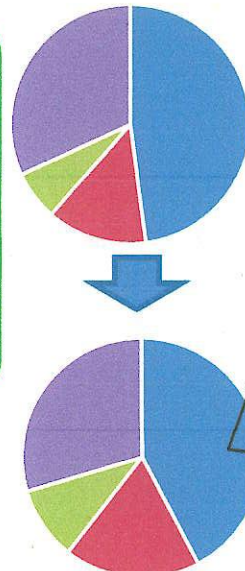
よふかしする人が減り、グッスリーパターンの生徒が増えました。

2年生の結果



よふかし・でこぼこパターンの人が減り、グッスリーパターンの生徒が増えました。

3年生の結果



よふかしの人が増え、グッスリーパターンの生徒が減りました。受験に向けて勉強の効率upの為睡眠パターンを見直しましょう。

パターンごとの目標達成率

学年	グッスリーパターン	よふかしパターン	でこぼこパターン	ねだめパターン
1年生	達成率: 66.7%	達成率: 33.3%	達成率: 20.0%	達成率: 40.0%
2年生	達成率: 75.0%	達成率: 26.7%	達成率: 25.0%	達成率: 52.9%
3年生	達成率: 80%	達成率: 40%	達成率: 40%	達成率: 54.5%

～生活リズムのタイプごとアドバイス～

■ グッスリーパターンの人へ

- ・規則的な生活を続けましょう。夜10時までには布団に入る習慣を続けましょう。

■ よふかしパターンの人へ

- ・夜寝る前のスマホやゲームは、脳の休息を妨げます。寝る30分前からスマホやゲームを控え、リラックスタイムを作りましょう。

■ でこぼこパターンの人へ

- ・寝る時間と起きる時間を、毎日一定にすることが重要です。特に、朝同じ時間に起きる習慣をつけましょう。

■ ねだめパターンの人へ

- ・平日と休日の生活リズムを合わせましょう！休日も平日と同じ時間に起きよう意識しましょう。

【健康的な生活リズムのポイント】

○睡眠のゴールデンタイムを活用

夜10時～翌2時は成長ホルモンが分泌される時間帯。

この時間にぐっすり眠る習慣をつけることが健康のカギです！

○寝る前1時間はスマホ・ゲームをOFFに

スマホのブルーライトは「寝る準備」をする脳の機能を鈍らせると言われています。勉強が終わったら、寝る時間までスマホはおやすみです。

○朝ごはんをしっかりとる

朝ごはんをしっかり食べて、脳と体を目覚めさせましょう。

これで1日が元気にスタートできます。

冬休みに向けてのアドバイス

冬休みは毎日が自由時間でもあります。しかし、その分メディアを見る時間が増えてしまいがち！健康的なスクリーンタイムを意識して、楽しい冬休みを過ごしましょう。

①スクリーンタイムのルールを作ろう！

- ・1日のスクリーンタイムは2時間以内を目指してみましょう。
- ・一関市の居間9ルール(夜9時にはスマホ・ゲーム・タブレット等を居間(リビング)の決められた場所に置き使用しません。)を意識して実行しましょう。

②他の楽しみを見つけよう！

- ・本を読む、音楽を聴く、自分でおもしろいアイデアを考える時間をつくろう。
- ・家族や友達とリアルでゲームや遊びをするのもおすすめです。

③体を動かそう！

- ・冬休みは家にいる時間が長くなりがちです。散歩や簡単な運動でリフレッシュすると、心身ともに健康に保てます。

スクリーンタイムが増えすぎると、睡眠不足や体の疲れが取れにくくなります。メディアを上手に使う工夫をすることで、毎日がもっと楽しくなりますよ！ぜひ具体的なルールを作り、家族とも相談してみてください。



令和7年度 学校運営支援協議会



一関市立磐井中学校